

ソロプチミスト日本財団 顕彰事業へ参加

1998. 6

ソロプチミスト日本財団は社会活動その他の奉仕活動に対する援助・協力を行うことにより、福祉の向上および国際友好の進展に寄与しています。その財団賞に当クラブからは下記賞への推薦をいたしました。

◆社会貢献賞 兼丸 道子

昭和54年から手話学習会を開催し、熊本での手話の普及を始め、地域での手話活動の先駆けの一人として、小・中学校、地域の子ども会等やボランティア活動に手話講師として参加。

ご自身の障害を一つの個性として、60有余年を過ごされ、障害児の母親としての社会活動、手話講師としての地域への貢献、特に子ども達へ障害者と健常者が共に生きるということを語る語り部としても活動されています。

(四奉仕委員会・IGU)



◆女性ボランティア賞 丸山 光代

てんかん及び知的障害を持つ子ども達を、どう社会的に自立した生活に近づけるかと、一般社会への啓発活動を推進し、資金集めや関係機関への働きかけ等の中心として家族・関係者をリードして、地域在宅の障害者の為の障害者共同作業所「ふれあいワーク」の開所に携わられました。そして、初代表として運営及び通所の仲間達への援助ボランティア、障害者間のネットワーク作りと地域活動などを積極的に取り組んでおられます。

(財団委員会)

◆青少年ボランティア賞 慶誠高等学校 生徒会

精神障害者施設への訪問を25年間継続している放送部など生徒会やボランティア同好会はもちろん、茶道部・バレー部・バスケット部・着付け部・ペンフレンド部等も各部活動の中でそれぞれボランティア活動を行っています。また、学校全体の取組として芸術教科で特別養護老人ホームへ美術・書道作品の展示と、音楽選択者のコーラス発表と交流を行っています。

(財団委員会)



新入会員を迎えて

1998. 7



意欲ある新しいメンバーの方々をお迎えし、これから一緒に活動できるのがとても楽しみです。

推薦者の方々とオリエンテーションでの新入会員の皆さん

◆ 紫垣蒼生子さん 藪田 真弓さん 三井 邦子さん
(左端) (中央) (右端)

(メンバーシップ委員会)

《国際ソロプチミスト熊本-さくら》では、7つのプログラム委員会と8つのテクニカル委員会の各分野で奉仕活動をおこなっています。

発行

1998年8月31日

国際ソロプチミスト熊本-さくら

広報委員 佐藤美代子・室場よしえ

例会日時/毎月第3水曜日

10:00~12:00

例会場/ホテルニューオータニ熊本

TEL096 (326) 1111



私たちの歩み No.2

'97年9月~'98年8月活動報告

国際ソロプチミスト
熊本-さくら

ごあいさつ

国際ソロプチミスト熊本-さくら
会長 吉永 伯枝

私たち「国際ソロプチミスト熊本-さくら」は、認証されて早や4年が過ぎました。その間、私たち会員39名は、毎年いろいろな活動を通して地域あるいは国際社会において微力ではありますが奉仕活動を行ってまいりました。会員一人一人の専門的分野を生かし活動する中で、今年は継続的事業の他に各委員会の活動がとても活発に行われました。これは、ひとえに会員皆様方および、地域の方々のご尽力の賜物でございます。また、このような活動を通して、会員相互のコミュニケーションが密になり、さらなる友情も深まったようです。

特に、新しいイベントとして「さくらインターナショナルパーティー」を行いました。この会に参加した子供達は、立派に文化交流の架け橋の役目を果たしたと思います。このような生活体験をすることにより、これから21世紀を担う子供達が国際社会へと大きく羽ばたいていってくれるものと思います。

また、4月には、江森陽弘氏をお迎えしまして、第4回チャリティー講演会を開催いたしました。多くの方々のご協力によりまして、地雷撤去キャンペーンのための絵本「続・地雷ではなく花を下さい」を益金より購入し、各小・中学校に寄贈させていただ

き、さらにカンボジアの地雷撤去に役立たせていただきました。

私たちは、これからの21世紀に向けて、地域のこと、我が国のこと、そして、世界のことなど、いろいろと考えていかなければならないと思います。しかし、私たち大人は、一人一人が願っていること、考えていることを自分の心にしまい過ぎているように思います。そこで、ほんの少し勇気を持って言葉に表し、行動に移すことにより、より大きな力になるものと信じます。そして、子供達の未来のために私達の活動が少しでも役に立てればと願っています。

1995-1999年 国際テーマ
"A Global Voice For Women"
女性のグローバルボイス

1996-1998年 連盟テーマ
"MAKING A DIFFERENCE FOR WOMEN"
女性のために変化をもたらす

1996-1998年 南リジョンテーマ
"WITH CONSIDERATION AND HARMONY"
思いやりと協調

▲ソロプチミストの活動テーマ

1997年度 クラブ役員

会長	吉永 伯枝	トレジャラー	曾方真理子
副会長	松田ゆみ子	アシスタント トレジャラー	田麦 通代
副会長	佐伯真知子	1年理事	片山 紘子
レコーディング セクレタリー	増田 俊子	2年理事	田中 英子
コスポンディング セクレタリー	坂本恵美子		



チャリティーバザー 1997. 11

11月16日(日) ボランティア週間のバザーに、今年も全員で参加しました。会員の家庭から日用雑貨・食品・衣類・その他400点もの品物が集まり、新市街でお店をオープンしました。会員お揃いのピンクのトレーナーが遠くから良く目立って、開店時間前からお客さまが品定めに集まり、閉店時間まで途絶えることなく立ち寄って行かれました。キャンディーのつかみ取りコーナーには子供達に交じて大人の方も楽しそうにボックスに手を入れているほほえましい姿もありました。会員のユーモアあふれる接客のおかげで閉店時間前には完売しました。会員の行動力と楽しそうに奉仕する姿に「さくら」のパワーを感じた一日でした。

益金の一部は「ふれあいワーク作業所」と「熊本市ボランティア週間実行委員会」へ寄付いたしました。(歳入委員会・経済的社会的開発奉仕委員会)



赤い羽根共同募金 1997. 10

毎年10月1日より赤い羽根募金が始まります。いろんな団体が参加しますが、私たちも毎年街頭募金に参加させていただいております。会員の小学生の子供たちも加わり、かわいい声で「お願いします」といつてくれるので募金高も多くなり、うれしいかぎりです。

(保健奉仕委員会・経済的社会的開発奉仕委員会)



ユニセフ活動支援 1997. 12

12月21日「ハンド イン ハンド」街頭募金に参加・保護や援助を必要とする子供たちのための募金活動に賛同し発足以来参加しています。これからも続けて協力していきたいと思ひます。

(教育奉仕委員会)

収集そして寄付

- 使用済みプリペイドカード (国際親善と理解活動委員会)
- 牛乳パック (環境奉仕委員会)
- 書き損じハガキ (教育奉仕委員会)
- 一円玉募金 ()

これらの収益金はヒューマンネットワーク等の事業所へ寄付し、大変喜んでいただいております。

さくらインターナショナルパーティ

1998. 1

平成10年1月24日(土)熊本市国際交流会館にて、第1回『さくらインターナショナルパーティ』を開催しました。

当日はこの冬一番の寒波に見舞われ吹雪の舞う中にもかかわらず、75名(外国人学生23名、日本人学生52名)もの参加者を迎え、お互いに交流を深め楽しいひとときを過ごすことができました。

このパーティは青少年の国際交流と健全育成を目的として、教育奉仕委員会と国際親善と理解活動委員会が合同で開催しました。さくら会員が講師となつ



た各コーナーを、参加してくれた学生は廻り、茶道・書道・折り紙・お手玉作り・ビデオ鑑賞・世界の飲み物など日本と外国の文化を体験学習しました。
(教育奉仕委員長・国際親善と理解活動委員会)

～プログラム～

- 14:00 I. 開会式
 - ◇会長挨拶・・・会長 吉永伯枝
 - ♪ 琴の演奏 ♪
 - ◇グループ紹介
 - グループメンバーの自己紹介
- 14:20 II. 交流会(体験ラリー)
- 15:50 III. 閉会式
 - ◇成績発表&抽選会・・・
 - 国際親善と理解活動委員長 室原佳江
 - ◇絵本の朗読
 - 『地雷ではなく花をください』
 - 絵・葉祥明 文・柳瀬房子
 - この絵本は、昨年度の私たちのチャリティ講演会の益金で、熊本市内の小学校に寄贈させていただいた地雷撤去キャンペーン絵本です。
 - ◇閉会のことば・・・
 - 教育奉仕委員長 西釜幸子

【茶 道】
奈良時代に中国から伝えられ、日本で『茶道』として独自の文化を開花させました。このコースでは、茶の湯の歴史、作法、心得等を短い時間ですが本格的に茶室にて体験します。

【書 道】
書道は毛筆と墨を使い、漢字や仮名文字を書く造形芸術の一つです。奈良時代に中国から伝わりました。文字それ自体が持つ意味や毛筆の多様性などが、書



道を芸術へと高めたのです。
このコースでは、自由な感覚で造形芸術としての書道を体験します。

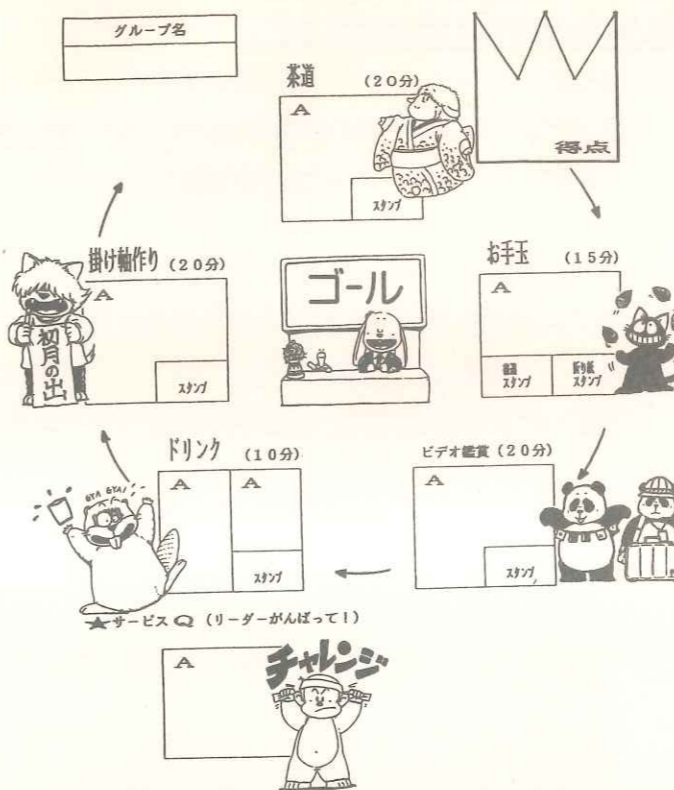
【折り紙】
紙を折って、色々な物の形をつくる遊びです。和紙と呼ばれる世界にも類のない紙が色々な文化を生み出し、その中で『折り紙』が育ってきたのです。このコースでは、折り紙を折って、掛軸のアクセントにします。

【お手玉】
小豆などを小さな袋に入れたおもちゃで、子供たちが歌いながらいくつかを投げ上げて受けたり拾ったりして遊びます。
このコースでは、お手玉作りをします。

【なるほど・ザ・ワールドドリンク】
世界の色々な国には、それぞれ独自の違った文化があります。
たとえば飲み物ひとつにしても様々です。そこで、このコースでは、3カ国の違った飲み物を用意しました。小さな食文化の違いを体験します。

【ビデオ鑑賞】
《発展途上国ってどんな国？
-小さな友情から大きな夢へ-》

クイズ ラリー カード



SAKURA INTERNATIONAL PARTY
さくら インターナショナル パーティ

Let's Enjoy Japanese Culture together!



Soroptimist International of Kumamoto-Sakura
国際ソロプチミスト熊本-さくら



◀楽しかった書道の体験を終えて次はどのコーナーへ行こうかな。

▼慣れない手付きで、お手玉作りに挑戦



▼少し緊張して、日本文化の茶道を体験



チャリティー講演会

1998. 4

「ジャーナリストの目から見た現代社会について」

講師 江森 陽弘氏
熊本市産業文化会館大ホール

桜が満開のすばらしく晴れ渡った4月4日(土) 歳入行事のチャリティー講演会を『江森陽弘』氏を講師にお招きし産業文化会館で開催しました。



この講演会で得た収益金で昨年同様、地雷撤去キャンペーン絵本、「続・地雷ではなく花をください」を購入し、熊本市教育委員会・熊本市PTA協議会のご協力により熊本市内と会員在住地域の小・中学校へ贈呈いたしました。

(歳入委員会)



▲江森陽弘氏のユーモアたっぷりのお話思わず笑顔で拍手の聴衆

9月より実行委員会を発足し、会員の皆さんにご協力いただきながら準備を進め、当日は例年になく男性も多く来場していただき会場も活気づきました。

江森氏は、テレビの司会者として、又、ジャーナリストとしてご活躍しておられ、その豊かな経験を基に「ジャーナリストの目から見た現代社会について」というテーマで講演をしていただきました。ご自分で地道に歩かれ取材された様々な事件の裏側や現代の子供達の心の中にまで目を向けられ、新聞を片手に客席に向かって熱っぽく語られ、その迫力にお客様もうなずきながら聞き入っている姿が印象的でした。1時間半の講演時間を20分も延長され、江森氏も会場のお客様の真剣な姿に感心しておられました。

当日の会場準備やそれぞれの役割をチームワークの良さでテキパキと進めていく会員の行動力は4回目とはいえ、すばらしいものでした。



▲熊本市立小・中学校校長会の代表・植田正大先生(五福小学校校長)へ目録を贈呈する吉永会長

ふれあいワーク作業所訪問

再春荘訪問

1998. 6

『ふれあいワーク』とは、平成6年5月龍田町に開所された障害者共同作業所です。てんかん及び知的障害を持つ人達が、基本的な生活習慣を身に付け、社会生活へ適応、復帰することを目的としています。

私達もクラブ発足と同時に側面から援助をし、共に大きく育つ様、努力しています。3~4名の班編成で、毎月2回作業所を訪問し、作業を一緒にしたり、お話をしていくうちに、障害者の方への理解や保護者の方のご苦労などを感じとっています。作業所は今年より法人化へ大きく前進をしようと、希望に燃えています。(経済的社会的開発奉仕委員会)



▲ふれあいワークの仲間といっしょに新聞紙を使ってカバンの形を整えるためのアンコ作りの作業をする

菊池恵楓園訪問

1998. 6

菊池恵楓園でゲートボールを通じてボランティアをされていた米沢ご夫妻に、昨年度卓話をさせていただいたご縁で、入所者自治会の遠藤邦江さんの体験談をお聞きしました。

(経済的社会的開発奉仕委員会)



▲遠藤邦江さん(前列中央)を囲んで

1994年、私たちクラブが認証されてからずっと続けている奉仕作業に、再春荘重度心身肢体不自由病棟へ、オムツを縫って届ける作業があります。今年は月に1人3枚ずつをお願いしましたが、そのオムツがどれだけ必要度が高いかをしるために、6月4日に病棟見学研修を実施しました。20名の会員が参加しましたが、ほとんどが初めての訪問で、東土長様より現場のお話をいただきました。3才からの心身ともに不自由な子供たち40名が生活していて、1度に7、8枚のオムツを使うとのこと(オムツのあて方も示してもらった)、また紙オムツより布オムツの良さをきき、オムツの必要を痛感しました。気の長い仕事ですが、子供が反応を示したときの喜びは格別ですと話を結ばれました。私たちも心を新たにオムツを縫い続けていきたいと感じました。

(保健奉仕委員会)



▲おむつの使い方の説明を受ける